



文蔵小通信



6月号



【文蔵小ホームページ】

南区文蔵 5-16-29

TEL:048-863-0721

FAX:048-836-1583

「ならぬことはならぬものです」

校長 丸山 謙一

私が担任として初めて引率した修学旅行の行き先は、福島県会津若松市の鶴ヶ城でした。戊辰戦争で白虎隊が散った地として知られるこの場所には、会津藩の子どもたちが学んだ「什の掟」があります。そこには「礼儀を重んじること」「嘘をつかないこと」「いじめはしないこと」など、人として守るべき基本的な行いが示されています。そして最後に「ならぬことはならぬものです」という言葉が添えられ、善悪の判断を徹底して教え込む精神が息づいています。

この教えは、時代を超えて私たちの生活にも深く通じるものです。社会の変化が激しい現代においても、子どもたちが正しい判断をし、誠実に行動する力を育てることが教育の根幹です。道徳教育は単なる知識の伝達ではなく、心の成長を支えるものです。学校では、日々の生活の中で「してはいけないことはしてはいけない」という当たり前のことを繰り返し伝え、子どもたちが自ら考え、選ぶ力を養っています。

本校では、子どもたちが安心して過ごせる環境づくりを目指し、「いじめ防止基本方針（本校 Web ページ掲載）」に基づき、いじめ防止の取組を強化しています。6月は「いじめ撲滅強化月間」として、全職員が共通理解のもとに指導を行い、子どもたちの心の声に耳を傾けています。いじめは決して許される行為ではありません。小さなからかいや無視も、相手の心を深く傷つけることがあります。だからこそ、子どもたち一人ひとりが「自分の言葉や行動が相手にどう影響するか」を考える力を身につけることが大切です。ご家庭でも、ぜひ「ならぬことはならぬものです」という言葉を話題にしてみてください。親子で「正しい行動とは何か」「人を思いやるとはどういうことか」を語り合うことが、子どもの心を育てる第一歩になります。社会全体がこの精神を共有し、互いに尊重し合う関係を築くことで、よりよい未来が開かれるでしょう。

私たち教職員は、子どもたちが健やかに成長し、誠実で思いやりのある人間として歩いていけるよう、これからも努力を続けていきます。また、いじめの行為が犯罪と捉えられる状況においては、警察に相談・通報を行う等、毅然とした対応を進めてまいります。

どんな時代になっても、「ならぬことはならぬものです」という言葉が、子どもたちの心の支えとなることを願っています。そして、いつも「笑顔であいさつ」を交わし合える環境を整えてまいります。